

# 事業報告書 団体名:かわさきミュージックチャレンジ

事業名	みんなでチャレンジコンサート
<b>【計画時の事業目的(取組課題)と実施効果】</b>	
<b>【事業目的(取組課題)】</b> 昨今、社会生活における様々な場面でのノーマライゼーションが叫ばれており、行政レベルや市民生活レベルで少しずつ浸透しているように思われる。 しかし、障がいのある子どもを音楽に触れさせたく音楽会に聴きに行きたいが、子どもが声を出したり、立ったりしてしまい、なかなか聴きに行くことができない。また、障がいのある子どもや大人が大きな会場で発表する機会は、一般に比べて大きく限られている現状がある。 そこで、演奏者と観客が障がいの特性を理解し、共に楽しめる音楽会の創出を目指して、平成 31 年度(2019 年度)に「かわさきミュージックチャレンジ」を立ち上げ活動を開始した。 音楽やダンス・芸術などの表現を上手下手の評価にとらわれることなく、自己表現の喜びとして相互に楽しみたい。この活動をとおして、自己評価を高めることが出来れば、社会の中でも各々の良さを発揮できると考える。また障がい者への理解も進んでいこう。ノーマライゼーション、共に生きる社会の架け橋となりたい。	
<b>【実施効果】</b> 1. 障がいのある方が、ステージで多くの人の前で演奏することにより、日々の生活に活気を与え、自信につながる。 2. 障がいのある方の余暇時間の過ごし方が充実される。 3. 障がいのある方の演奏を聴くことで、障がいに対する理解を深めることができる。 4. 障がいのある方や家族が、周囲を気にすることなくプロの演奏を聴くことができ、豊かな生活につながる。 5. 障がいの有無に関わらず、共に音楽を楽しむ一体感を味わい、ノーマライゼーションへの理解が深まる。	

<b>【実施結果】</b>	
<b>【実施時期・会場】</b> 日時:令和 4 年 1 月 22 日(土) 開場:12:45 開演:13:30 終演:15:30 (集合 10:00 スタッフ、10:30 出演者、10:50 リハーサル) 会場:川崎市総合自治会館ホール 定員 200 名 110 名参加(出演者、スタッフ、来場者含) *まん延防止等重点措置が発令され、前日1/21 よりの適用であった。 定員 200 名の会場に対し約半数の 100 名の来場を見込んでいたので、昨年度の開催コンサートで実施した感染防止対策と同様の対策をすることで開催した。 *検温*手指消毒*マスク着用*利用者名記入(代表のみ可)*除菌ウエットシート*受付パネル*感染症対策呼びかけ*リトミックチーフの配布	
<b>【内容】</b> ① 演奏の部 (10 組) ①障がいのある方(子ども～成人)の演奏 5～10 分×9 組=50 分程度 演目:ピアノ、フラフープ披露、歌、ヴァイオリン、トーンチャイム、アンサンブル ②鍵盤ハーモニカ楽団 「ホールニューワールド」・・・指1本で弾ける動画を事前に見て練習 ② 鑑賞の部 (2組) 10 分×2 組=20 分程度	

・パルティ&Sachiyo ソプラノ・ヴァイオリン・ピアノアンサンブル

・アコーディオン奏者

③ みんなで歌おう…参加者全員で合奏 10 分

「風になりたい」

※感染症のガイドラインにより合奏のみとした

\* 出演者数…計 29 名(個人申込 17 名、鍵盤ハーモニカ楽団 5 名、トーンチャイム 8 名(塚越中学校みのり級)

\* 1 組新型コロナウイルス感染状況懸念のため出演辞退

#### 【募集方法】

≪演奏者・出演者≫

##### ① 演奏の部

\* 今年度はホームページをリニューアルしたことにより、募集の効果があつた。今までの活動の様子を載せることで応募者もイメージがしやすかつたと思う。

ホームページからの申し込みに統一した/締め切り後にも応募があつた/新規 1 組出演

##### ② 鑑賞の部

\* 今回は多方面に活躍のアコーディオン奏者に依頼し快諾を得た。とても良いチャンスに恵まれた。

\* 演奏の部での申し込みが予定より多く、プロ演奏鑑賞の部を 3 組予定していたが、2 組とした。

≪来場・聴衆の集客について≫

\* 新型コロナウイルス感染の拡大が懸念されたため、下記の来場・聴衆の集客はしなかつた。

・チラシ SNS、ホームページやチラシ等で広報活動を行い、参加者を募る

・養護学校や公立小中学校の特別支援級と連携を取り、案内を行う

・放課後デイサービスなどへの案内を出す

・関係者各位などに郵送にて紹介する

\* チラシは 1000 部用意したが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大がおさまらず、チラシ配布を予定していた先には送らなかつた。後援先である「しんゆり・芸術のまちづくり」では地域の各所にチラシを置いてくださるのだが、開催1か月前にお願いするにとどめた。

\* チラシ配布先とおよその枚数

スタッフ100 枚×4 人、出演者 30 枚程度×12 人分

イベントでの配布 100 枚、後援先 60 枚

\* 今回のコンサートは出演者数が多かつたため、知り合いの来場者が増えることが見込まれた。

\* 音楽のまち・かわさきより、TVK の情報番組「猫のひたいほどワイド」にてこのコンサートを紹介する機会をいただけた。コンサート数日前の放送で反響もあり、多くの方に観ていただけたと感じている。

#### 【感染症拡大予防への対応】

\* 感染拡大予防対策を団体としても様々な対応や配慮、工夫をした。(1日前にまん延防止等重点措置が発令となった)

チラシへの記載、マスク着用、入場前の検温、手指消毒、受付でのパネル設置、入場者の連絡先記入願い、休憩時の換気、客席の間隔確保、終了後の消毒作業等

\* 前回、みんなで歌おう「風になりたい」では、合唱が出来ず観客の参加をうまく取り込めなかつたので、今回はリトミックチーフを取り入れてみた。感染対策も考え受付の際に配布した。結果、司会の上手な誘導もありステージでは出演者がエッグシェイカーやマラカス、ジャンベ、ヴァイオリン等を演奏し、会場からはカラフルなハンカチーフが振られ、とても良かった。

#### 【改善点の成果】

・開催の問合せがホームページよりあつた。チラシやパンフレットを配布してきた効果と考えられる。

・SNS 発信へむけて、出演申込者へ同意書を配付し提出(同意できない方は提出必須)をしてもらうスタイルを取り入れた。

・新型コロナウイルス感染の状況が難しいなかでも工夫をしながら継続できたことにより認知度が上がってきた手ごたえがある。「なるべく聴きに行きたいと思っている」と声もかけられた。

・工夫した点として、コンサートを盛り上げるために『リトミックハンカチーフ』を取り入れた。主に全員合奏「風になりたい」で客席の参加スタイルとして歌えない状況、参加しにくい心情があってもハンカチーフを振ることで雰囲気はよくなった。司会者の誘導も効果的だった。

・実行目標の評価

- ① チラシ、ホームページ等の準備は早めにできた。ホームページをリニューアルしたことで使いやすくなった。
- ② ホームページに活動記録や写真を載せた。楽しく見てもらえると思う。
- ③ 広報担当は設定してみたが、実働はまだ至らない点がある。実際のところ、感染状況などもあり動きにくかった。
- ④ ⑤各方面への案内は状況的に難しかった。今後取り組んでいけるよう準備していく。

## 【実際の効果と課題】

### 【実施効果について】

・演奏者より…「僕は歌うと声が大きくなってしまっていました。今回は優しい声で歌う曲だったので、最後まで優しい声で歌えました」…今まで出来なかった事が出来るようになった喜びや自信はご本人もご家族としても嬉しかっただろう。

・演奏者より…「ドレスアップして皆さんの前で演奏することを楽しみにしています」…日々の練習の成果をステージの上で披露することは特別なことだと思う。お姉さまがメイクアップをお手伝いされており、ご家族の在り方も素敵だった。これからの自信に繋がっていくことと思う。

・来場者より…「皆さんの頑張りや楽しんでいる様子が見られてよかった」(アンケートより複数同類コメントあり)…障がいがあっても音楽を楽しみ、練習を頑張り、ステージで披露する姿を多くの方に観て聴いて頂くことによって、理解を深めてもらえられた。

・アコーディオンの演奏が聴けて良かった。とても素晴らし演奏者で会場の皆さまを存分に楽しませてくれた。今後当団体の活動理念をプロの演奏者にも広め、ノーマライゼーションのマインドをもっといろいろな方にご出演いただけるように拡げていく。

・ダンスの披露の際に自然と会場から手拍子が沸いた。共に楽しむ一体感があつた。ノーマライゼーションへの理解、総合理解が深まっていくと感じられた。

### 【アンケート結果】

配布枚数 81 枚中回答 27 名、白紙 1 名(回収率 35%)(入場者約 110 名-出演者数 29 名)

■男性 6 名 女性 21 名

■年代

小学生 2 名 中学生 0 名 高校生 0 名 それ以外の 10 代 2 名 20 歳代 8 名 30 歳代 0 名  
40 歳代 3 名 50 歳代 9 名 60 歳代 3 名 70 歳以上 0 名

■満足度判定抜粋(満足、やや満足、どちらともいえない、やや不満、不満)

①総合的: 満足 88% やや満足 12%

②構成内容、③演奏、④アクセス、⑤開催日程、⑥スタッフ対応の項目も 満足、やや満足で 100%であった。

理由・コメント)知り合いに来てもらい易い設定(入場無料)/上手下手関係なく一生懸命練習した成果を観せてもらえたり、聴かせてもらえて、こちらもやる気が出た/感動とエネルギーをもらった/みんなでもりあがった/教え子の成長をより感じた

■当団体の趣旨への理解

満足 48% やや満足 37% あまり理解できなかった 4% 白紙 11%

■また来たいか

参加したい 70% やや参加したい 19% 白紙 11%

■良かった点

感動しました、また来たい/アコーディオン素敵でした/いろいろな演奏が聴けた/あたたかい雰囲気、演奏後のコメントも良かった/観客にも話しかける司会が良かった/誰でも参加できる場所/いろいろなジャンルで参加できる場所/司会の方がとても良かった/入場無料

■改善点

客席とステージが同じ高さだったので見えにくかった/会場につくのにかかった(アクセスが難しかった)

■ご意見ご要望

毎年開催していると知り驚いた、友人にも伝えます/障がいのある方の貴重な場なので、長く続けて欲しい

■メッセージ

トーンチャイムの音がすてきだった/これからも続けてください/また観たいです/検温、案内など徹底されていて安心しました

【今後の課題と気付き】

・会場の確保の問題が常にある。コロナ禍で会場が予防接種会場になっていたり、改修工事期間であったりと会場の数も少なかった。また一時規制が緩んだ際には申し込みが集中し、会場の空きが一挙に減ってしまい会場の選択肢が狭められたが、今回は複数の抽選に挑み、なんとか確保できた。

・障がいのある方を聴衆として迎えるスタイルは多々あるが、当団体の趣旨である障がいのある方が主役をなしてステージに立つ事はオリジナリティがあり活動意義があることと自負している。この点をもっとアピールし、広めていくためには、広報的な活動にもっと力を入れていく必要を感じた。今回はまん延防止等重点措置発令下での開催のため、広報活動を控えた。

・アンケートの回収率の改善が必要である。アンケート内容は改善を加え良いものにしてきたが、書いてもらうタイミングや場所を設定が足りなかった。次回からはアンケート記入スペースの設置を用意していきたい。

・アンケートの結果より、来場者にはとても満足感と理解を得られたと感じた。今後は実際に会場まで来てもらえるような広報活動を模索していくことが重要である。

・この活動を持続していくために、かわさきミュージックチャレンジ団体としての体制づくりと基盤強化が必要であり、そのための人材確保、資金面、協力者及び賛同者の確保についてさらに検討していくことが課題である。